



ヤブコウジ *Ardisia japonica* サクラソウ科

名古屋大学博物館友の会

NUM 友の会ニュースレター

No. 61

2020年12月18日発行

新しい年に期待する

足立 守

コロナに始まりコロナで終わった2020年。“安全で”有効なワクチンの早期登場が待たれます。コロナのため、どの大学もキャンパスへの立ち入りや対面授業に制限があり、大学生活に胸を膨らませて進学した1年生は入学式もガイダンスもなく特に気の毒です。実験や実技をどうするのか、通信教育のようなオンライン授業主体でいいのかも問われています。

コロナ禍で、さまざまなスポーツ・芸術文化イベント（名古屋では、大相撲やニューイヤーコンサートなども）が中止になり、1年前までは普通に入ることができた博物館、美術館、図書館、映画館、劇場、競技場の利用が、人数や滞在時間などで大きく制限されています。こうした“非日常”生活を強いられることによりストレスが蓄積している人も多く、また、芸術・文化・スポーツが人間のメンタル面に大事な役割を果たしていることに気づいた人も少なくないでしょう。

コロナウイルスが人間に芸術文化の重要性を再認識させてくれた今こそ、博物館や美術館は何のためにあるのかということを考える“きっかけ”にしないと、その存在価値を失ってしまうかもしれません。NUMには、コロナ後の新たな展開“大学博物館ルネッサンス”を期待したいと思います。

新型コロナウイルスなんかは負けてたまるかの“たまるか精神”で2021年を乗り切りましょう。

会員随想(訂正版)

60号2頁の中川様の文章に一部印刷ミスがありました。大変失礼いたしました。全文を再度掲載させていただきます。引き続き随想をお寄せくださいますよう、お待ちしております。

ステイホームと手紙

中川弘美

春のステイホーム中は、手紙をたくさん書きました。親しい人だけでなく、ご無沙汰している人など、いろいろです。振り返ってみると、年齢層も幅広く15歳から91歳まで。我ながらうれしい驚きでした。自分自身のコレクションもあるのですが、それ以上に父の切手、母の絵葉書や便箋があり、それらを活かしたいなとも思いましたので。

8月になってから、暑中見舞いや残暑見舞いとして返事をいただくことがふえました。中には、自分が手紙を出したことをすっかり忘れていた人もいて(笑)、『春にはお便りをありがとうございました。すごくうれしかったです。なのに返信が遅れすみません』。いえいえとんでもない、大丈夫。またお手紙書きますね。

リモート全盛の世の中ですが、このような時の流れとコミュニケーションを楽しんでいる昨今です。



友の会会費の納入について

今号のニュースレターで振り込みを依頼し、4月のニュースレター発行の時に会員証を同封するため、会費納入の「払込票」を同封します。お近くの郵便局で手続きをよろしく願います。納付はできるかぎり1月～3月の間で行います。

シリーズ Artist Earth (12)

アンモナイトの縫合線

足立 守

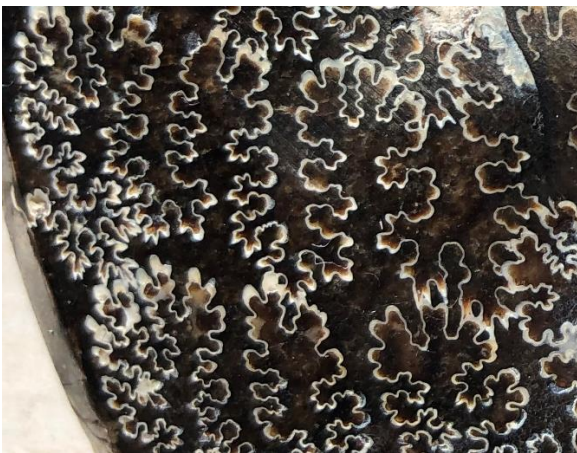
日本ではアンモナイトを菊石(きくいし)と呼ぶことがあるのはなぜでしょう？写真はアフリカ・マダガスカル産の中生代白亜紀のアンモナイトです。外殻(がいかく)と呼ばれるアンモナイトの殻の一番外側(凹凸の模様)がとれて、殻の下の“つるっとした”部分に繊細な白い線が見えます。この複雑な模様が縫合線(ほうごうせん)です。下の拡大写真では、その複雑できれいな模様がよく分かります。

アンモナイトの内部には多くの部屋(隔室、かくしつ)があり、部屋と部屋の境界は隔壁(かくへき)と呼ばれています(写真上・右を参照)。隔壁は外殻近くでは波打った局面になり末端部では複雑に分岐することがあります。こうしたアンモナイトでは縫合線が複雑な模様になります。古い時代の縫合線は直線的で白亜紀のものは複雑なので、縫合線のパターンで時代が分ると言われています。

縫合線の複雑な模様は、キクの葉に似ているので、アンモナイトを菊石と呼んだ人がいるのもうなずけます。直径約 1.8m の世界最大級のアンモナイトがニュージーランドで見つかった時も、最初は植物化石発見というニュースから始まりました。



マダガスカル産のアンモナイト (横=14cm)



上の写真の左端付近を拡大 (横=3.5cm)

ギャラリートーク報告

門脇誠二

博物館で開催中の特別展「アフリカから東山キャンパスまで：名古屋大学による遺跡調査からみる人類史」のギャラリートークを 10 月 19 日(月)に行いました。

アフリカで採集された石器や、古代エジプトのピラミッドの 3D 画像、中米のオルメカ・マヤ文明の石彫拓本、東山キャンパスで発掘された古代の陶器など、様々な地域と時代の展示品についてご説明し、実際の石器や土器を手にとってご覧になっていただきました。コロナ禍の中でようやく開催できたことが嬉しく 1 時間以上になってしまいましたが、参加された皆様には最後までおつきあいいただき感謝申し上げます。また、ギャラリートークの写真を後日博物館に届けてくださった方へこの場をお借りしてお礼申し上げます。

当展示は来年 4 月 10 日まで開催予定です。



また、下記のウェブ講演会を予定していますので、是非ご覧ください(申込み方法は、博物館ホームページをご覧ください)。

➤1 月 16 日(土)

「7 基のピラミッドの 3D 計測調査と建造研究」

講師：河江肖剰(高等研究院 准教授)

➤2 月 6 日(土)

「名古屋大学によるアフリカと西アジアの旧石器遺跡調査」

講師：門脇誠二(名古屋大学博物館 講師)

名古屋大学博物館よもやま その3 名古屋大学のグリーンベルトと本多静六

野崎ますみ

豊田講堂から一面に広がる芝生、その先には図書館まで遮るものがなく※、両側に大きなクスノキとケヤキの並木が続いています。



豊田講堂から見たグリーンベルト

このグリーンベルトは、名古屋帝国大学を作る際に初代総長の渋沢元治（来年の大河ドラマの主人公：渋沢栄一の甥）が、本多静六博士を招き作ったプランを引き継いでいます。静六は「公園の父」と言われ、日比谷公園を皮切りに、明治神宮の森や奈良公園、近在では、鶴舞公園、中村公園、岐阜公園、岡崎公園など、日本中の大規模公園の造成や改修を手がけています。東大の校章になっているイチヨウも静六のプランです。



本多静六
(1886-1952)
40歳ごろ、国会図書館デジタルコレクションより

静六は、また、ミュンヘン大学留学中の1890年（明治23）に後藤新平（名大の源流の愛知医学校初代校長）と親しくなり、生涯を通じて交友があったそうです。1923年（大正12）の関東大震災の復興原案も、新平の知恵袋として静六がたったの2日間で仕上げたものです。さらに、同郷（埼玉県）の渋沢栄一は度々静六に事業の相談を持ち掛け、「学者にしておけるのは惜しい、実業家にならないか」と言ったそうです。

さて、日本の公園には名大の並木と同じく、ケヤキやクスノキがとても多い事にお気づきでしょうか？これも静六が、ケヤキ、クスノキ、イチヨウなどは強くて日本の公園に適しているとしたことから、現在でも続いている様です。ケヤキは材になるし、クスノキからは樟脳が、イチヨウからは銀杏（ぎんなん）が採れるので、経済に明るく日本初の投資家とも言われる静六らしいと考えます。

そんな名大の並木の中で豊田講堂近くには、後に植えられたコブシの並木もありました。春には白い花が、秋には赤い実と紅葉が目を楽しませてくれましたが、あるときバツサリ切られ、クスノキに代わりました。静六の言葉を守ったのかは分かりませんが、私としてはコブシのほうが良かったように思えます。博物館前には、伐採を免れたコブシが1本、理学部A館前にも、もう1本ありますので、名大にお越しの際は、素晴らしい並木と共にコブシも探してみてください。

※現在、名大では、図書館を地下式にして名古屋市内を見渡せる本来の姿に戻すキャンパスマスタープランがあります。

友の会写真サークル写真展@SAKURA CAFE

10月からセミナーハウス2階で展示しておりました「名古屋大学博物館友の会写真サークル写真展」ですが、2021年1月から一部を本山駅前のSAKURA CAFEで展示することになりました。終了は2月27日（土）を予定しています。ご興味のある方は一度お店に連絡し、営業をお確かめの上お出かけください。

*サクラ カフェ 電話：052-789-1110

本山駅2番出口より徒歩3分



早春の南八ヶ岳連峰 三矢保永

野外観察園 2020 冬～2021 初春

吉野奈津子

日中は冬を忘れる暖かさの時もありますが、朝晩は冷えますね。急に冷え込んだので樹木の色づきはきれいでした。観察園ではフウやイヌビワの葉が黄色く色づき、真っ青な空によく映えました。はらはら葉っぱが舞い落ちる姿は美しくもありますが大変でもあります。年末までは落ち葉との戦いです。種から育てたアカシデの苗木はやっと私の身長を超え、今年は真っ赤に色づきました。どこかへ移植したいと思っていますがきっと植木鉢から根が飛び出ているので掘り取れるかどうか・カツラの苗木も鉢から根が飛びだしたら、ものすごい勢いで成長してしまいました。こちらもこの冬こそは移植したいです。落ち葉の積み込みに剪定、移植と冬は力仕事のオンパレード。ステイホームのお正月でのんびりした体にはちょうどよいでしょう。修復した池は問題なく無事1周年を迎えられそうです。アオミドロと思われる藻が水面に大量発生するので、来年は藻を減らせるような工夫をしたいと思っています。今年は今までに見たことがなかったトンボやカエルが姿を見せました。来年はさらに進化できますように。

(2020. 12. 14 記)



フウ
Liquidambar formosana
フウ科



アカシデ
Carpinus laxiflora
カバノキ科



イヌビワ *Ficus erecta* クワ科



イロハモミジ
Acer palmatum
ムクロジ科

名古屋大学博物館友の会 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学博物館 気付
電話：052-789-5767 (博物館事務室) F A X : 052-789-5896 (博物館事務室)
Eメール：hakubututomo@gmail.com アクセス：地下鉄名城線「名古屋大学」下車 2番出口
ホームページ：http://www.num.nagoya-u.ac.jp/fan
年会費 1000円 (4/1～3/31) 10/1～3/31 に入会した場合は 500円 (次年度は 1000円)
家族会員制度あり (同居の家族 1名まで年会費を免除)
<振込先> ゆうちょ銀行 口座番号：00800-8-166807 加入者名：名古屋大学博物館友の会
他銀行からの振り込み 店名〇八九 (ゼロハチキュウ) 店番 (089) 当座 0166807